

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	豊橋くすのき学園		
○保護者評価実施期間	令和6年11月1日 ～ 令和6年11月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	令和6年11月27日 ～ 令和6年12月13日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園の事業所として50年の歴史があり、療育の積み重ねがある。	月ごとに療育プログラムを設定し、実施している。登園児の状況によって柔軟に内容を変更している。	既存のプログラムを深める。 新しい療育プログラムの開発。
2	他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等との連携を図り、地域全体の質の向上に対する取り組みを行っている。	自立支援協議会やこども支援専門部会、市が主催する会議等に参加している	児童発達支援センターとして、地域における中核的な役割を果たす取り組み（地域の子育て支援センターへの訪問、ペアレントトレーニング、研修の機会、交流会の開催など）。
3	保育所や認定こども園等との交流を実施している。	年4回、隣接する保育所と交流保育を行い、相互に訪問を実施している。	地域の子どもたちと活動する機会を作っていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	適切なスペースが確保できていない。	基準は満たしているが、小グループの部屋のスペースが、狭い。	現在のスペースを仕切る等、療育の中で工夫していく。
2	定員、子どもの状態、実施している事業に対して適切な職員数が確保できていない。	配置基準は満たしているが、児童発達支援センターとしての業務が増えている。	募集を行っていく。
3	職員個々の支援力に差がある。	療育の経験年数の差がある。	療育についての研修やOJTを行い、支援力の向上を目指す。